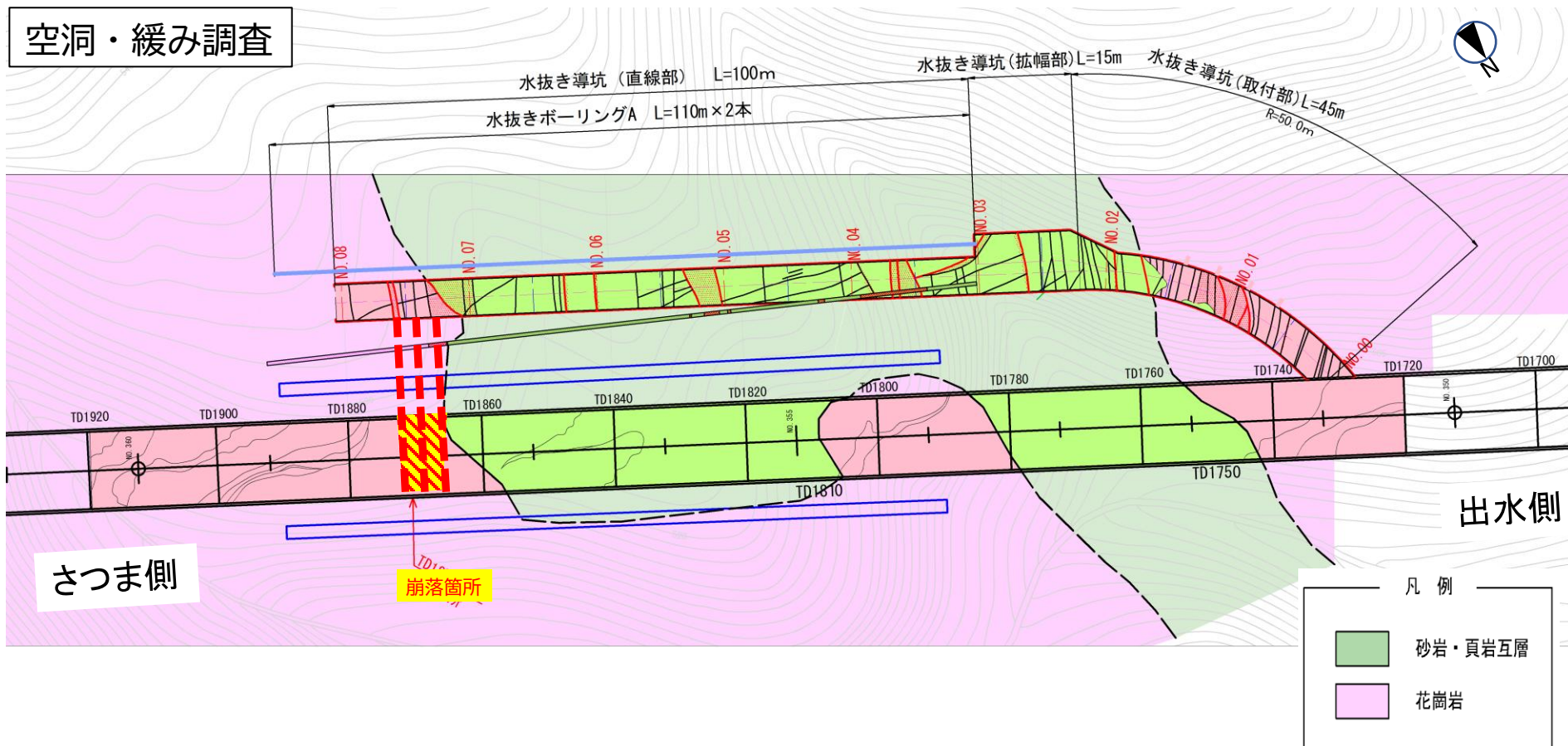


道路本体の復旧について
(空洞・緩み調査とその対策)

● 空洞・緩み調査とその対策について

- 空洞・緩み調査（削孔検層，コアボーリング）の結果、TD1865～1872付近で崩壊に伴う崩積土と緩み領域を確認
- トンネル外周から1 D区間（トンネル外径の1倍）で明らかな空洞は確認されず
- TD1858～1880付近のトンネル外周部の1 D区間に存在する崩積土と緩み領域を対象として、導坑側から地盤改良を行う

空洞・緩み調査



● トンネル外周部の地盤改良について

- 1 D区間の崩積土と緩み領域を対象に検討（1 D区間内に明らかな空洞は確認できず）
- 注入材等の逸走抑制と本坑復旧時の安定対策のため、0次注入によりバルクヘッドを構築
- 0次注入材は耐湧水性及び強度を考慮し、高強度ウレタン系を想定
- 1 D区間のうち、バルクヘッド以外の崩積土と緩み領域に本注入を行い、本来の地山強度程度まで地盤改良を行う
- 本注入に使用する注入材は、今後、土質試験の結果を踏まえ選定

